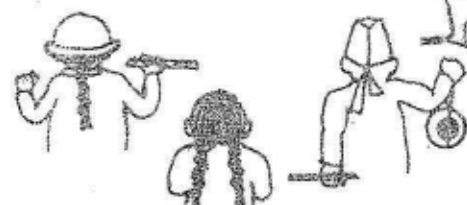


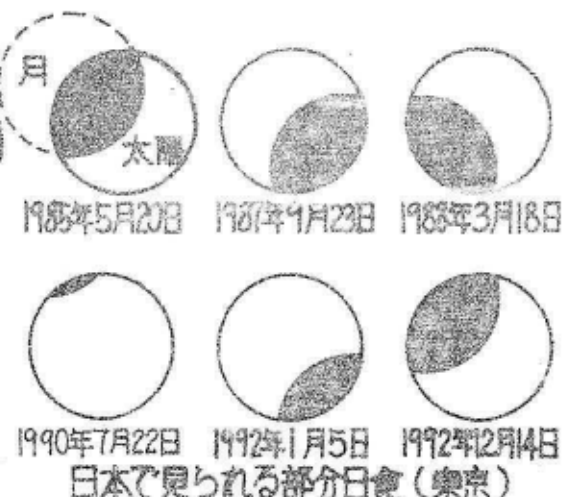
黒い太陽の物語

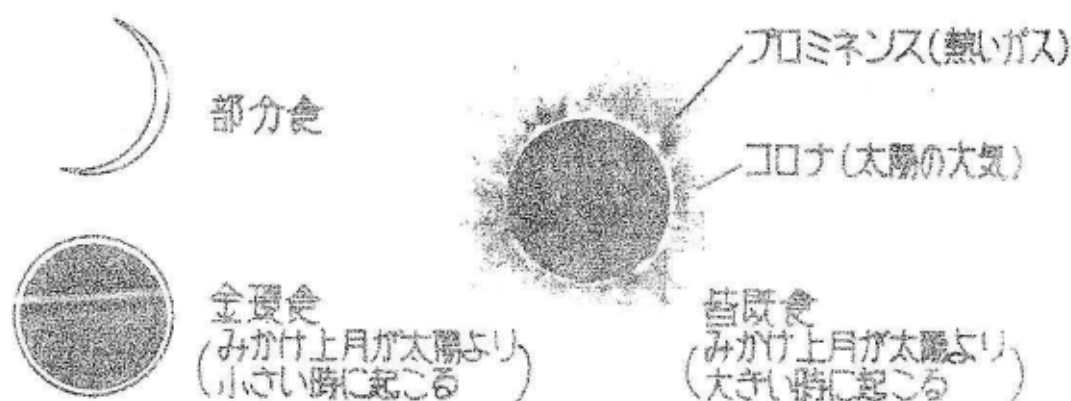
日食はとても不思議な現象です。ふだん丸く見える太陽が突然欠け始め、三日月のような形になったり、太陽が全く見えなくなることもあるからです。その時にはあたりが暗くなり、気温も下がり、星が見えてくるのです。

このような日食は、昔から人々に恐れられ、世界各地にさまざまな言い伝えが残っています。中国では、『日食は竜が太陽を食べるので起こる』と、言われていました。人々は鐘や太鼓を打ち鳴らして竜を驚かせ、太陽を食べるのをやめさせようとします。この様子は今でも祭りの中に残っています。インドネシアでは『悪い神様が太陽を食べる』と伝えられています。ただ、この神様は首から下がなく、たとえ太陽を飲みこんでも、すぐ外へ出てしまい日食はまもなく終わるのだと伝えられています。太鼓を鳴らすのは中国と同じです。



中国の日食の言い伝え





さて、日食はなぜ起こるのでしょうか。それは月が太陽をかくすからです。月が太陽の一部をかくす時は「^{ぶぶんしき}部分食」、月が太陽をすべてかくす時は「^{かいきしき}皆既食」、月が太陽のすべてをかくしきれず、太陽が指輪のように見える時は「^{きんかんしき}金環食」と呼ばれています。この違いは月が比較的地球に近い時に日食が起こるか、遠い時に起こるかによります。月が近い時は月も大きく見えるので「皆既食」になります。皆既食の時には、ふだん見ることのできないコロナやプロミネンスを見ることができます。コロナは真珠色に輝くとても熱い(約100万度)太陽の大気で、太陽のまわりに広がって見えます。プロミネンスは太陽の表面より少し上空にある熱いガスで、明るく輝いています。ともにとても美しいものです。

富山で次に部分食が見られるのは1985年5月20日、皆既食となるとずいぶん先になって、51年後の2035年です。(m.w.)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和59年6月1日発行